

# 子ども被災者支援基金

2019年上期

## 活動報告書

1. 活動の方向性
2. 事業スケジュール
3. パートナー事業
4. 研修事業
5. 助成事業
6. 次年度へ向けた課題
7. 今後の予定と方向性

福島第一原子力発電所事故による放射能物質等の影響を受けている子ども達の中で、  
保養に出ることが困難な子ども達への支援  
と  
より多くの子ども達へ保養の機会を作るプロジェクト



一般社団法人  
子ども被災者支援基金



公益財団法人  
**庭野平和財団**  
NIWANO PEACE FOUNDATION

## 1. 活動の方向性

今年度は絵本プロジェクトからの寄付の残金を活用し、昨年度に引き続き「基盤整備枠」「プログラム助成枠」「保養設備強化枠」の3つのタイプの助成金を提供しました。昨年度を振り返り、保養団体のニーズがどこにあるのか見極める1年として活動を行って行きます。

## 2. 事業スケジュール

4月 7日	絵本プロジェクトメンバーと今後について協議
4月10日	2019年度パートナー団体募集締切
5月 5日	第1回運営会議 各事業の構想
5月20日	2018年夏助成応募受付開始（6月1日まで）
5月27日	会計監査及び事務局監事会議
6月 8日	受入全国協議会 保養相談会にブース参加（いわき）
6月 9日	受入全国協議会 保養相談会にブース参加（二本松）
6月10日	2019年夏助成選考委員会（NPF 会議室）
6月11日	2019年定時総会 及び第2回運営会議 研修事業の構想
7月21日	モニタリング実施（14団体8月19日まで）
8月31日	パートナー団体保養プログラム終了
9月30日	助成団体報告精算終了（ただし2団体未提出）
10月 5日	第3回運営会議 11月の研修の打ち合わせ
11月 2日	台風19号緊急支援 事前準備 参加者顔合わせ会
11月 3日	台風19号緊急支援 郡山市芳賀公民館で炊き出しと清掃 余った食材（うどん）は5日にいわき市災害ボランティアセンタースタッフの夕食として提供
12月 4日	台風19号緊急支援 間接支援として各パートナー団体の支援 に対する助成を実施（物資送料や交通費などを助成）
12月27日	オアシス in 日高をフィードバック訪問

## 3. パートナー事業

事業概要：保養プログラムの質の向上を目的に、各保養団体のプログラムの特徴や長所短所を把握すると共に、課題の抽出と解決を図るため、その意思を持つ団体が当団体の支援を優先的に受けられるように、特定の強い関係性を保つこと。特に顔の見える関係性を作る事を念頭に置いている。

また、今年度も受入全国協議会の保養相談会に参加し、パートナー団体のPRを行った。相談者にとっては、客観的な評価を交えた話しが聞けるので、非常に好評で多くの相談者が来場した。またこのPRがきっかけで参加に結びついたケースも見られた。

#### パートナー募集時期

説明会開催：3月 2日PM（札幌）  
3日AM（八戸）  
8日PM（静岡）  
16日AM（岡山） PM（京都）  
17日AM（福井） PM（金沢）  
21日PM（東京）

応募受付：説明会終了後～4月18日

#### パートナー応募団体

##### 2016年から継続団体

- ① 長瀬やなせ「カラッポのおうち」の会 神奈川県
- ② 殿下被災者受入委員会 福井県
- ③ 吹夢キャンプ 大阪府
- ④ ウェルカムかさおか 岡山県
- ⑤ 関門保養プロジェクト・下関 山口県

計5団体

##### 2017年から継続団体

- ① （特非）福島の子どもたちを守る会北海道 北海道
- ② （特非）ライフケア 福島県
- ③ （特非）福島こども保養プロジェクト・練馬 東京都
- ④ びわこ1・2・3キャンプ実行委員会 滋賀県
- ⑤ NPO法人福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト 香川県
- ⑥ さよなら原発ママパパ美作ネットワーク 岡山県

計10団体

##### 2018年から継続団体

- ① オアシス in 日高 北海道
- ② 特定非営利活動法人PONTE 福島県
- ③ ふくふくっこ@知多半島 愛知県
- ④ ふくしまっこチャレンジスクール実行委員会 石川県
- ⑤ 関西きんじょすくいの会 兵庫県

⑥ どろんこキャラバン☆たんば 兵庫県

2019 年新規加入団体

① 親子わくわくピクニック実行委員会 静岡県

② NPO 法人みんな地球の子どもじゃん 青森県

③ 子ども未来・愛ネットワーク 岡山県

継続団体 17 団体、新規団体 3 団体

※退会団体 子どもを応援する会 ほんわか（北海道）

子どもの保養サポート上田（長野）

たかつき保養プロジェクト（大阪）

南紀おたすけ隊（和歌山）

F O E ジャパン（東京）

サポート紡（京都）

一般社団法人未来野良（岡山）

主な退会理由 未来野良はウエルカムかさおかと活動を合併  
ほんわかには解散、上田は活動縮小、たかつきは事務作業についていけない、南紀、サポート紡、F O E は理由を明らかにしていないが、南紀、紡はパートナーになるメリットを見いだせていなかったと分析している。F O E は助成金が不採択になったことを快く思っていない様子であった。

パートナーになるための条件

- ・団体の概要（2019年度の事業計画、予算、役員名簿）書類の提出
  - ・当基金指定のセルフチェックシートの提出
  - ・当基金のパートナー会員になること（入会金 2,000 円年会費 5,000 円）
- ※基金の考え方を理解して貰うよう事前の確認を徹底。

パートナー団体の特徴

前年度もパートナーとしてのメリットを見いだせているところと、そうでない所の 2 極化が進んでいると報告したが、よりカラーが鮮明になり今年度は実際に退会する団体が出た。助成金以外でのメリットを感じている団体も増えてきているとみているが、自分たちの保養を継続するための外部リソースとしてのとらえている団体はまだまだ少ないと感じる。一方どうしても登録初年度の助成金の採否でその後の方向が決まってしまう団体が一定数出てしまうことは避けられないことかと考えて

いる。

#### 4. 研修事業

事業概要：昨年度から東京で一泊しながら2日間にわたる研修を実施しているが、今年度も同様に企画した。しかし、台風19号による災害が福島県内でも甚大な被害をもたらしたことから、この災害の緊急支援を実施するため、研修会は中止することとした。

##### 研修会実施日（予定）

保養の未来を創る、学びと気づきの研修会

11月16日17日（東京）

各パートナー団体の保養に参加している人達が被害にあっている最中、研修会で時間とお金を使うより、保養参加者をはじめとする福島県内での直接的、間接的支援を実施し、各パートナー団体と福島との接点づくりをより強化した方が良いのではないか、ということで中止の判断を行った。

##### 台風19号緊急支援活動（研修会を中止して代替事業として実施）

###### 1. 直接支援・・・郡山市内の避難所で清掃および炊き出し

11月3日（日）

基金メンバー3名とパートナー団体から4名の計7名で実施郡山市内の芳賀公民館という避難所で、屋内の清掃と屋外（駐車場）の清掃活動を実施。清掃活動については郡山市災害ボランティアセンターと連携し、炊き出しについては郡山市と連絡することができ、非常に良い活動が出来たと思う。炊き出しはうどんとそばをそれぞれ100食準備したが、避難所の人数が減りつつある状況だったため、うどん10食、そば80食の提供となった。しかし、朝食、昼食が菓子パン、夕食は弁当で脂っこいものが多いため、あっさりしたそばは大人気で残った食材を何人かに分配した。急な声かけではあったが、@練馬、親子わくわくピクニック、殿下被災者受入委員会、子ども未来愛ネットワークから各1名ずつ参加して頂いた。

###### 2. 間接支援・・・パートナー団体が行った支援に助成金を支給

11月3日の活動に来る事ができない団体も多かったため、各団体が独自に行った支援活動のうち、交通費や支援物資の

送料を助成した。結果は以下の通り。

	交通費	物資送料
子ども未来愛・ネットワーク	17,966	
ライフケア	24,186	
子ども保養プロジェクト@練馬		9,270
計	51,442	

パートナー団体と福島とのつながりがより強くなれば保養にも生きてくると考えたが、急な対応であったためか、思った程参加者、助成希望は集まらなかったのが残念であった。

## 5. 助成事業

事業概要：今年度は絵本プロジェクトの寄付金と併用して以下の枠を設けた。

基盤整備枠 1団体15万 4団体 60万 (NPF)

プログラム助成枠 1団体20万 5団体 100万 (絵本)

保養設備強化枠 1団体10万 2団体 20万 (NPF)

要配慮者参加促進奨励金 1人2万 15名分 30万 (NPF)

合計予算 230万

要配慮者参加促進奨励金は採択団体に限定せず、パートナー団体全体が申請可能とした。

### 採択団体と助成額

	団体名	採択額	要配慮者枠	合計
基盤強化枠	親子わくわくピクニック	150,000	37,500	187,500
	吹夢キャンプ	50,000		50,000
	殿下被災者受入委員会	50,000		50,000
	福島子ども保養プロジェクト練馬	100,000	18,750	118,750
プログラム助成枠	ウエルカムかさおか	50,000	56,250	106,250
	オアシス in 日高	50,000	56,250	106,250
	関門保養プロジェクト下関	150,000	75,000	225,000
	子ども未来・愛ネットワーク	50,000		50,000
	どろんこキャラバン☆たんば	200,000		200,000
	津山でのびのび親子保養	150,000		150,000
	福島の子ども達を守る会・北海道	200,000		200,000
ふくふくっこ@知多半島	200,000	56,250	256,250	

	びわこ☆1・2・3キャンプ	100,000		100,000
	みんな地球の子どもじゃん	200,000		200,000
保養設備強化	ライフケア	50,000	75,000	125,000
	長瀬やなせカラッポの家	辞退 50,000		
要配慮者	PONTE		75,000	75,000
	計	1,750,000	450,000	2,200,000

※長瀬やなせカラッポの家は採択時5万円の採択を受けるか否かの選択で、辞退という選択をした。(合計からのぞく)

※要配慮者枠の単価は、予算額を超える人数の応募があったため、予算額を頭数割し算出した。

#### 助成金の効果

- 採択総数 : 15団体+要配慮者追加枠1団体
- 参加者総数 : 355人(子ども269人保護者86人内要配慮者24名)
- 事業費総額 : 16,745,176円
- 助成金合計 : 2,200,000円
- 参加費徴収額 : 2,649,280円
- 総事業費に占める当基金の割合  
: 平均 13.14%
- 総事業費に占める参加者負担の割合  
: 平均 15.82%
- 参加者一人当たりの事業費  
: 平均 47,170円
- 参加者一人当たりの参加費  
: 平均 7,463円
- 参加者一人当たりの助成額  
: 平均 6,197円
- 要配慮者の参加人数  
: 27名 うち追加交付申請24名分
- プログラムの平均宿泊日数  
: 8.4日

過去年度との比較

項目	2015年夏	2016年夏	2017年夏	2018年夏	2019年夏
採択団体数	14団体	7団体	7団体	10団体	15団体
参加人数 子ども	357人	156人	136人	274人	269人
参加人数 保護者	115人	24人	35人	79人	86人
事業費総額	17,607,313 円	8,039,613 円	9,975,701 円	13,953,730 円	16,745,176 円
助成金合計	3,999,940 円	1,860,000 円	1,220,000 円	1,807,000 円	2,200,000 円
参加費徴収額	3,922,800 円	1,370,500 円	1,846,000 円	2,192,250 円	2,649,280 円
総事業費に占める当基金の割合(平均)	22.72%	23.14%	12.23%	12.95%	13.14%
総事業費に占める参加者負担の割合(平均)	22.28%	17.05%	18.50%	15.71%	15.82%
参加者一人当たりの事業費(平均)	49,320円	44,665円	58,337円	39,529円	47,170円
参加者一人当たりの参加費(平均)	8,311円	7,614円	10,795円	6,210円	7,463円
参加者一人当たりの助成額(平均)	11,204円	10,333円	7,134円	5,119円	6,197円
要配慮者の参加人数	15名	16名	7名	5名	27名
プログラムの平均宿泊日数	—	6.4日	8.0日	8.9日	8.4日

実施結果と評価

各団体の報告書及び決算書

基盤強化枠	資料1-1を参照
プログラム助成枠	資料1-2を参照
保養設備強化枠	資料1-3を参照
要配慮者参加促進奨励金(申請書のみ)	資料1-4を参照

台風19号緊急支援資金援助(申請書のみ) 資料2を参照



モニタリング結果と講評

資料3を参照

助成団体の参加者へのアンケート結果

資料4-1, 4-2を参照

事業を振り返って

4月の早い時期に絵本プロジェクトと会合を持ち、今後の両者の連携について話し合いを行ったが、結果としてうまく行かず絵本プロジェクトの資金を安定的に獲得することは不可能となった。しかし、このような手法は大変参考になったこともあり、同様の「何か」を模索して行きたいと考えている。また、今年度人件費の獲得や資金獲得の一助になればと沖縄県の委託事業を受託した。一定の成果と目的は達成したと考えているが、沖縄県、我々も初めての事業であったため、進め方が難しく結果大きく時間を取られることになり、本来の保養事業の進行が遅れ気味になってしまったことが大きな反省点としてあげられる。現時点で来年度の受託は未定だが、保養事業に支障をきたさないよう前向きに考えたいと思っている。

この活動も5年目に入り、各パートナー団体の我々に対して求めていることが鮮明化してきた。これまでよりは助成金だけを当てにしている団体は減ってきていると感じている。研修会であったり、コンプライアンス推進の呼びかけであったり、保養を構成する側面の部分での貢献は大きなものがあると感じている。一方、時間の経過と共にパートナー事業の体力は低下しつつあり、特に事務関係の対応が弱くなってきていると感じる。引き継ぐ若手がいなかったり、若手がいてもスキルが足りなかったりと、団体内の牽引者から管理業務を離すことが出来ない現状にある。また、このような主催団体の弱体化にともない、特にコンプライアンスなど分かっているけど、担い手がない、手が回らないといった弊害も生まれてきており、コンプライアンスの旗を振っても付いて来れる団体が少ないのも危惧すべき現状である。各保養団体は元々草の根的な活動から組織的な団体へ成長してきた経緯があるが、元の草の根活動に戻りつつあるように感じる。この様な現状を認識した上で、我々のパートナー団体に対する姿勢も変えていく必要があると考えている。

(付いてこいスタイルではなく、コミュニケーション重視の寄り添いタイプ)  
研修会中止については、かなり判断に苦しんだが、保養参加者が被害に遭って苦しんでいる中、研修会を開催していいものか、この時間とお金を被災者に振り向けるべきではないかという判断から中止の措置をとった。結果としては炊き出しの参加者や支援の費用の助成などあまり大きなものではなかったが、我々が音頭を取って支援に向かおうとしたことは、多くのパートナー団体から支持を頂くことが出来た。来年度は今年度以上に災害を意識した

スケジュール作成を行っていきたいと考えている。

## 6. 次年度へ向けた課題

- ① 助成金の募集から選考までのスケジュールの見直し
- ② 助成金の選考で使用する一覧表の改善（見やすく、効率的な）
- ③ チェックリストの見直しと活用
- ④ N P F以外の資金の確保
- ⑤ 保養団体と参加者をつなぐ仕組みや機会作り
- ⑥ コンプライアンス推進のあり方（方向性）を検証
- ⑦ オリンピック開催に関連する状況変化の発信、相談
- ⑧ 3カ年計画の2年目、来年度を見据えた検証と変更

## 7. 今後の予定と方向性

- ・基本的に来年度は今年度と同じ形で事業を進める。
- ・今年度も助成金の申請書については簡素化を図ったが、来年度は簡素化にくわえ要点の見える化がはかれるよう大幅な改善を図る。合わせて選考がやりやすくなるよう改善を図っていく。
- ・我々基金と、パートナー団体と参加対象者をつなぐ機会を作れないか検討。研修会の開催を東京ありきで考えず、参加者との交流の場も含め福島開催も視野に入れる。
- ・独自の資金獲得については、様々な方向を検討し事業化に向けて進めていく。
- ・来年度も引き続き今年度の経験を活かして更なる密度が高く公益性の高い事業を展開すると共に、更なる飛躍を遂げられるよう邁進致します。

以上